

# 報告



懇談会の様子

## 平成29年度地域医療住民活動懇談会

常任理事・地域医療部長 伊藤 利道

平成29年11月24日、当会8階会議室で、平成29年度地域医療住民活動懇談会を開催した。当会では平成21年からさまざまな住民活動を行っている団体に集まっていたいただき、情報交換を行なっている。平成29年度は24団体にお声掛けし、8団体12名に参加していただいた。

はじめに名寄市風連国民健康保険診療所サポートクラブ、地域医療を考える稚内市民会議より、それぞれ活動報告が行われた。

その後、「地域医療を守る活動を継続・発展させるためには何が必要か」というテーマに基づきフリーディスカッションを行った。主な意見を紹介する。

### 地域医療住民活動懇談会団体一覧（24団体）

市町村	団体名
松前町	松前病院「傾聴ボランティア」、「キルトサークル」、「絵手紙教室」
千歳市	スマイルハートリー
千歳市	ちとせの介護医療連携の会
京極町	ひまわりクリニックサポーターの会
岩内町	地域医療を考える会
赤平市	赤平市社会福祉協議会ボランティアセンター
滝川市	滝川市立病院「菜の花」応援団
砂川市	砂川市立病院ボランティア
深川市	ボランティア・わかくさ
白老町	白老町立病院を守る友の会
浦河町	浦河の医療機関を守る会
士別市	士別市立病院応援隊
留萌市	留萌がんばるかい
羽幌町	地域医療を守る会「折り鶴」
北見市	北見赤十字病院の明日を考え支援する会
芽室町	公立芽室病院をみんなで支える会
名寄市	名寄市立総合病院サポートクラブ
名寄市	名寄市風連国民健康保険診療所サポートクラブ
別海町	別海町地域医療サポート隊「医良同友」
羅臼町	羅臼の医療を支える会（RISの会）
本別町	本別町病院ボランティア運営会議
根室市	ねむる医心伝信ネットワーク会議
根室市	根室の地域医療を守る連絡会
稚内市	地域医療を考える稚内市民会議

### 【主な意見交換の内容】

○小職：稚内市の開業医誘致制度は非常に有効な施策であると思う。利用件数や具体的な優遇面についてうかがいたい。

○飯田事務局員（地域医療を考える稚内市民会議）：開業医誘致条例が施行されたのが平成18年で、これまでで5件の利用がある。稚内出身者が1名、奥さんが稚内出身の方が1名、道外出身者2名、市立稚

内病院に出張医として勤務されていた医師が1名という内訳である。また、優遇面では、土地・建物等の取得費として3,000万円、医療機器リース料が月40万円、さらに土地・建物にかかる税金の助成もやっている。

○長瀬会長：美幌町立国民健康保険病院の院長は九州出身の方であるが、美幌町をすごく気に入られてお勤めになられたとのことである。以前約15名の医師がいたが、北大医局からの派遣がなくなり、一時期医師2名体制となってしまった。そこでm3.comで募集したところ30名くらいの応募があり、この内、12名雇ったとのことである。大学ばかりに頼らず、自分たちで探す方法も良いと思う。

○小職：院長は就職希望のあった医師一人一人と、酒を飲みながら十分に話し合っただけで採用したと仰っていた。各地域では、住民と医師や病院スタッフとの懇談の機会を設けたりしているのか。

○渋谷事務局長（地域医療を守る会「折り鶴」（羽幌町））：会費制で歓迎会を含めて年2回ほど、当会・病院の医師・看護師、苫前町から天塩町までの各町村長、道立病院局の職員とあわせて約50名で懇親の場を設けている。また、秋9月頃にはバーベキューパーティを開催し、こちらも多くの方にご参加いただいている。

○佐藤副会長（ちとせの介護医療連携の会）：毎年、忘年会や新年会を行い、1,000円以内のプレゼント交換や余興も行っている。また、研修会等を催す際は、講師を囲んで打ち上げも開催している。

○望月会長（羅臼の医療を支える会）：忘年会等を開催しても、医師は患者のオンコールに対応するため、常時待機しており、お酒は飲めない状況である。病院スタッフも夜勤の方もいるので、全員参加というのはまずない。

○森事務局長（留萌がんばるかい）：私はハンターであるため、エゾシカを獲って、さばいて、焼いて、皆さんにふるまっている。非常にインパクトがある会と自分では自負している。また留萌市では、留萌市立病院が24時間の対応に苦慮しており、医師が不足している状況である。

○小職：休日や夜間の診療体制について、コンビニ受診に対する啓発等の対応や問題点など住民の立場から見てどのようにお感じいかがか。

○鈴木町議会議員（ひまわりクリニックサポーター

の会（京極町）：ひまわりクリニックでは、365日24時間、オンコール体制をとっており、通院患者は、24時間いつでも受診できる体制にある。それ以外の患者については、倶知安厚生病院へ受診してもらう体制をとっている。

○椿坂会長（滝川市立病院「菜の花応援団」）：休日夜間急病センターが滝川市立病院へ移行しており、北大の医師に週末出張医として来てもらって一次救急のご協力をいただいている。今のところ、大きな問題は出ていない。

○川原代表（名寄市風連国民健康保険診療所サポートクラブ）：24時間の対応は名寄市立総合病院にお願いしている。風連国民健康保険診療所では、約30件の訪問診療を2人の医師でされており、夜間は交代で対応しているようである。在宅による看取りで亡くなる方も多く、また看取りを希望する住民も多い。

○小職：在宅医療は医師ばかりでなく、看護師、その他の医療スタッフも少ない状況ではないか。

○佐藤副会長（ちとせの介護医療連携の会）：千歳市では、北海道家庭医療学センターが向陽台ファミリークリニックを開業され、訪問診療を行っていただいている。

○鈴木町議会議員（ひまわりクリニックサポーターの会（京極町））：訪問診療は積極的に院長に行っている。また、理学療法士なども多く確保しないと、在宅医療・訪問診療は難しいと感じている。

○飯田事務局員（地域医療を考える稚内市民会議）：稚内市では、在宅と看取り医療については、道北勤医協宗谷医院が市立稚内病院と連携して行っている。市立稚内病院の医師は激務であるため、市民の立場として、激励と感謝しかない。

○小職：入院では点滴や人工呼吸器などの対応を行うが、在宅では無理である。在宅では積極的な医療を行わずに看取ることになるわけであるが、住民には理解はされているのか。

○森事務局員（留萌がんばるかい）：留萌市立病院はDPC（包括医療費支払い制度）を採用している病院のため、急性期疾患の処置が終わるとすぐに退院となる。しかしながら、退院先の受け皿となる病院が1件しかないため、ここで受け入れられなければ深川にお世話になる状況である。そのため、病院の中で最後を迎えるということに対し、住民の考え方も少しずつ変わってきていると感じる。

◇

次に北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課より「地域医療の確保に向けた取組について」、北海道保健福祉部高齢者支援局高齢者保健福祉課より「地域包括ケアシステムの推進について－介護保険制度の取組－」と題して報告があり、質疑応答が行われた。

○小職：要支援者等への生活支援に対して、住民ボランティア主体による多様なサービスについて説明

があったが、各市町村ではボランティアとして積極的に参加してくれる仕組みがあるのか。

○山谷主幹（北海道）：「介護予防訪問介護」「介護予防通所介護」の2つのサービスについては、全国一律の給付サービスから市町村が手掛ける地域支援事業へ平成29年4月から移行することとなっており、現在179市町村が今までと同じ内容でサービスを提供している。ボランティア団体主体の市町村もいくつかあるが、団体が存在しない地域では、生活支援コーディネーターを中心に担い手を発掘していかなければならない。介護保険サービスの中で行うので、取り組みの主体は保険者である市町村が中心となって進めていくこととなるが、将来的には住民主体で行ってほしい。

○鈴木町議会議員（ひまわりクリニックサポーターの会（京極町））：国が提示している地域包括ケアシステムの構築やオレンジプランについては、3,000人くらいの小規模な町になると、なかなか目的を達成できない状況にある。一律に地方の特殊性を考えないで施策を打っても実効性はないと思うので、地域性を考慮にいった施策を提示してほしい。

○山谷主幹（北海道）：生活支援コーディネーターや認知症初期集中支援チームの設置については、新たに設置しなくとも、すでに対応可能な地域もたくさんある。北海道としても、一つ一つ地域の話をはかっているが、対応していきたい。

◇

その後、目黒常任理事よりメディカルウイングについて資料に基づき話題提供があり、質疑応答が行われた。

○山川事務局員（地域医療を考える稚内市民会議）：13件の搬送のうち、3件が稚内市の利用であった。メディカルウイングにより本当に貴重な命が繋がったと認識している。是非、今の計画的搬送だけでなく、緊急的にも対応いただける運用を望む。

○目黒常任理事：強く認識している。緊急搬送における運用については先日、厚生労働省へも話をしたところである。今後も北海道等と連携しながら国に要望していきたい。

◇

最後に北海道・小川地域医療課長より「町づくりにはお金はやはり必要で、調達先が課題である。私は厚生労働省出身であるが、地域づくりや地域包括ケアシステムの構築にあたっては、他省庁の補助金などもうまく活用できないかという話も出ている。また、地方創生推進のためのお金の活用も考えている。我々も視野を広くして、取り組んでいきたい。」との感想をいただいた。

◇

以上のように、活発な意見交換が行われた。ご多忙のなか、ご出席いただいた各住民団体の皆様に厚く御礼申し上げます。